

岡山県医療対策協議会 第2回産科医療部会の概要

日 時：平成20年2月20日（水）15：00～17：00

場 所：岡山衛生会館5階第1・2会議室

出席者等：別紙のとおり（周産期医療協議会との合同会議）

【総合・地域周産期母子医療センターの運営状況について】

- ・総合周産期母子医療センターのNICUの病床利用率は高く、ほぼ満床の状態である。
- ・NICUは満床の状態が多いが、搬送受入ができるよう努力している。
- ・3月に新病棟が完成し、NICUが3床から6床に増える。
- ・NICU専門医を今後1名増員し、受入体制を整える。
- ・夜間の看護師が少ないが、なんとか確保して運営している。
- ・県外からの搬送が多い。
- ・県外に患者を搬送することがないようお互いに協力して必ず県内で受け入れるようにしている。

【周産期救急搬送受入体制について】

- ・かつては応需情報システムを利用しなくても受入に問題はなかったが、搬送依頼の増加などから、利用を進める必要がある。
- ・周産期応需情報システムの内容が実態に合っていない。
- ・応需情報の項目の見直しが必要である。
- ・開業の先生方は昔からのつながりで搬送を依頼することが多いので、応需情報システムはあまり利用されないのではないか。
- ・応需情報はリアルタイムの情報に常に更新されていなければ意味がない。
- ・現場の医師に情報を更新させるのは無理である。
- ・有効に活用するには情報の更新などを行うコーディネーターが必要なのではないか。
- ・情報を1カ所に集めてコントロールするセンターが必要なのではないか。
- ・搬送受入を断る件数が少ない状況を見ると、情報をコントロールするセンターはあると助かるが、絶対に必要だとも言い切れない。
- ・実際に情報をコントロールするセンターを設けるとなると難しいのではないか。
- ・情報をコントロールするスタッフも産科のことがよくわかっている者でないとトラブルになる。
- ・応需情報が常にリアルタイムに更新されていれば、それだけでも混乱は少なく済むのではないか。
- ・応需情報も病院の状況がより詳しくわかるものにしておかなければならない。
- ・情報の更新にインセンティブを与えないと更新しないのではないか。
- ・メディカルクラークの活用を検討してみるのはいかがでしょうか。
- ・開業の先生方にも応需情報システムを利用してもらうよう再度周知する必要がある。

【NICU等長期入院児に対する適切な療育・療育環境の確保等について】

- ・療育施設にもスタッフや病床数など受入に限りがあり、療育施設の現場も混乱しているようである。
- ・症例数の増、重症化により受入側にとまどいがある。
- ・療育環境について実態がよくわからないので、調査した方がよい。

- ・療育環境の確保については、数字だけで判断してはいけない。
- ・NICUへの長期入院を避けるために在宅に移すことで、家族にしわ寄せが来ている。家族だけでなく、家族をサポートする側にも経済的な支援が必要である。
- ・療育施設側はNICUから直接患者を受け入れることを好ましく思っていない。
- ・在宅でがんばっている方が多い。そういった方の実態も把握した方がよい。
- ・まずNICU長期入院児について実態を把握し、それをもって在宅療養児についてまで対象を広げて調査した方がよい。

【産科オープン病院について】

- ・リスクの軽減、マンパワーの確保などの面から今後オープン病院を各地域に広げていくことが必要である。
- ・現状ではスタッフなど体制的に難しい。オープン病院に取り組みないわけではないが、時期をもう少し待ってほしい。
- ・リスクの判断がきちんとできていないケースがある。オープン病院の実施にはリスクの判断がきちんとできなければならない。
- ・以前に地域からオープンベットを持つことに反対意見が出たことがある。
- ・オープン病院の実施には、まず産科医が確保できなければならない。
- ・開業の先生方の協力が得られるのであれば、実施に問題はないと思う。すぐには実施は無理かもしれないが、しっかりと開業の先生方に啓蒙することが必要である。
- ・ローリスクで早期の妊婦健診まで病院に集中することになると困る。
- ・開業の先生方に病院の施設を貸し出し、主導権を持ってもらう形は難しいと思う。
- ・津山地域は開業の先生も多く、取り組むには良い地域だと思う。
- ・来年度の途中からでも県南・県北1カ所ずつ取り組んでほしい。

【岡山県における医師確保対策（産科医師確保対策）について（医療対策協議会）】

- ・岡山大学、川崎医科大学の地域枠、自治医大の定員枠の増が必要である。
- ・産科および小児科について県北の拠点となる病院を強化するべきだ。
- ・県北の小児科について、夜間でも重症児を受けてもらえるよう津山中央病院にマンパワーを集中するべきだ。大学としても配置できるよう指導をしている。
- ・あまり拡大すると疲弊を生むので、40分程度でたどり着ける範囲でマンパワーを集中すべきである。

【岡山県の周産期死亡の状況について】

- ・周産期死亡などの数字は岡山県は全国でもトップレベルではあるが、油断するとすぐに数字が悪くなる。
- ・宮崎県では、周産期死亡などの事例検討を行って周産期死亡などの数字の向上を図っている。岡山県でもすべきだと思う。
- ・死亡の原因を分析できれば公衆衛生上望ましいことである。
- ・周産期センター以外の死亡がどういう原因だったのか調べるだけでも有益である。
- ・宮崎県では事例検討会に県のバックアップがある。岡山県でも考えていただきたい。